
夜 叉 池 採 集 記

林 幸 子

今年予定していた夜叉池に採集に行くべく乗用車で6時福井出発、岩屋まで車で行けると聞いて出かけたのに大河内へ行く道から岩屋の方へ入ったら急に道が荒れ、橋も半ばこわれて大小の落石のころがる道になる。しばらくで橋はおちて一本橋になっている所から車をおりて歩きにかかる。ササユリがたくさん咲いている道は日野川の源流にそって奥へと続く。9時半頃岩屋につく。廃村かと思ったら老人が一人山菜を乾している。

夜叉池への道を尋ねてみたが行ったことがないという。これからが悪路のはじまりである。川には橋がない。木をおしたましの上を歩く。日は照って草いきれであつい。川の中の石から石へと飛びながらあぶなっかしい川渡りをしながら進む。途中採集しては袋にいっぱいになるとみやすい所におきながら歩く。木本類の花も多く見られる。

頂上までの採集品はハクウンボク(花期)、ナナカマド(花)、ヨヨウラクツツジ(花)、スノキ、ミツバオオレン、イワウチワ、イワカガミ(花)、ウツギ(花)、バイカウツギ(花)、オヒヨウ、バライチゴ(実)、ユキツバキ、イタヤカエデ、オオイタヤメイゲツ、ウラジロガシ、ミヤマハハソ(花)、ダンコウバイ、アカシデ、ミヤマトウバナ(花)、ハナヒリノキ、谷川にたおれたくさった木にホテイシダ、ウラジロヨウラク(花)、ウリハダカエデ、シナノキ、コミネカエデ、マルバマンサク、チドリノキ、ヒナウチワカエデ、イチャクソウ、テンニンソウ、コウモリカズラ、ケナシャブデマリ、ツノハシバミ、クマノミズキ、ミズキ、ツリバナ、ウリノキ(花)、シノブカグマなど採集しながら登る。道は谷川とわかれて胸つきで一足先を行く友達の足が私の顔の所にくる。脂汗を流してあえぎながら登る。一休みして灌木の中をみつめていたら10mほど先に一株のエビネが見える。黄みがかった一個の花もみえる。珍品だと心を躍らせ急な山はだをやっとの思いでたどりつく。花はもうすんで最後の花がわずかに色を残している。ただのエビネでないことは、たしかだ。エビネに魅せられているこの頃の私には感激の一瞬であった。

そっとていねいに掘りとる。来年咲くこの花をみるべくビニールの袋に入れる。それから注意して歩くと同じ斜面にまたみつかる。エビネの生育に適しているらしいと思いつつ三株持って帰ることにした。

ホンシャクナゲの群落があったが花はもうすんでいる。その近くの下草にギンリョウソウのまっ白な花がいっぱいあるのをみつける。とても美しい。エゾユズリハの群落を越した頃他の若い人の

グループがのろのろ歩きの私達において来た。池が近かったら合図をしてねとたのむ。しばらくすると彼等の合図の声が聞こえ池もま近いと元気を出して登る。

池についてびっくり、暗い小さい池を想像していたのに明るくて大きい池である。すっかりうれしくなって池にかけよれば、なんと池の中はイモリの大群集底の土がみえないぐらい、渡辺先生の記録にこの池について池の水を腹いっぱい呑んだとあったのにと二度びっくりである。

池のぐるりの滝木に白くて大きい花のようなものがある。花かと思って近よってみれば、モリアオガエルの卵である。池の上にのびた木の枝にたくさんの白い大きな花のようにぶらさがっている。この池でおそるおそる手を洗って弁当を食べる。この頃より遠くで雷がなり出す。急いで採集にかかる。

池の周囲では、サンカヨウ(花)、ヤハズハンノキ、ホウチャクソウ、ユキザサ(花)、マルバハンノキ、マルバフユイチゴ、エゾリンドウ、オクモミジハグマ、ヒメモチ(花)、などを採集、池からおねへ登って行けば、はじめてみるフジシダがみつかり喜んで採集する。でもこの近くにオオフジシダもあったとあとから聞いたが不勉強のばちがあたって採集できなかつた。

おねに出てみてもう一度びっくり、そこは一面のお花ばたけであった。思わず歓声をあげる。ここではゼンティカが花ざかりで遠く三国岳への稜線は黄色一色ですばらしい眺めである。イブキトラノオも花ざかりである。

ここでは、アオヤギソウ、カラマツソウ(花)、ヒトツバヨモギ、ミヤマトウキ、シモツケソウ、ハナヒリノキ、アザミ、オオコメツツジ、キャラボクの大きい株、ハクサンカメバヒキオコシ、ミヤマイボタ、イボタ、サワフタギ、イヌツゲ、ミヤマシグレ、ミヤマニガイチゴ、イワギボウシ、イワガラミ、キジムシロ、ニガナ、カライトソウなどを採集する。

カライトソウはまだつぼみもかたいが夏の頃はどんなにきれいに咲くことかと想像するだけでも楽しい。白山のうまのたてがみでみたカライトソウをおもいだしてそう思うのだった。岐阜、滋賀、福井の三県境で植物的に興味のある所と聞いて登ったのだが来てよかったとお花ばたけに立って思ったのだ。

三国岳へ心は残ったが時間がないのと雲足が早く雷鳴も近くので急いで下山する。

途中雨に降られながら、雨でぬれた川の中の石に足をすべらせ、いくつもたまっていく採集品の袋を背に5時頃自動車の所にもどり、6時半家に着く。くたくたにつかれ苦労して登ったが収穫も多く思い出に残る採集であった。

後 記

44年4月30日夜又池からもって帰って学校の庭で箱うえにして育てたエビネの第一の花が咲

いた。それはサルメンエビネであった。赤い猿の顔のようなこの花は私にとってはじめてみる花である。一年待った喜びは大きかった。さっそく写真に写す。

エビネ、ナツエビネ、サルメンエビネとそれに5月にもらったキエビネと四種類のエビネが今年の春から夏を楽しませてくれるだろう。

旭小学校 教諭